COMBI

コンビ チャイルドシート取扱説明書 （シートクッション後ろ側のポケットに保管してください）

プリムターンファーストEG
プリムターンファーストS

型式認定番号

自C-196

品質保証書付

●お子さまの安全のため、ご使用前に必ず本書を読み、十分ご理解のうえ、記載された内容に従い正しくお使いください。

●本書は、シートクッション後ろ側のポケットに保管してください。(P10参照)

●チャイルドシートを他のお客さまにお譲りになる場合は、必ず本書もあわせてお渡しください。

●安全運転を励行してください。

●裏表紙の品質保証書の欄に必要事項をご記入ください。

●ロッキングクリップがあることを確認してください。

この取扱説明書は、再生紙を使用しています。

もくじ

お使いいただく前に

このたびは、コンビ チャイルドシートをお買い上げいただき、ありがとうございました。ご使用前に、本書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

**チャイルドシートは、交通事故などの場合にお子さまの傷害を軽減することを目的としており、必ずしも事故からお子さまを無傷で守るものではありません。
またチャイルドシートを使用するときには、必ず保護者の方が同乗してください。**

お使いいただけるお子さまの条件

次の条件をすべて満たすお子さまにお使いください。

●体重
- 3.8kg以上～18kg未満のお子さま。
(参考年齢…1カ月未満～4才ころ)
- 座らせたとき胸あてパッドとあごとの間に、3cm以上のすき間があくこと。
- 3.8kg～7kg未満のお子さまは、インナークッションを取り付けて使用。(20ページ参照)

●身長
- 50cm以上。
- チャイルドシートに座らせ、後頭部が背もたれから上に出ないお子さま。

取り付けできない座席

下記以外の座席でも、チャイルドシートをしっかり固定できない場合には使用しないでください。

●シートベルトの付いていない座席。

●ELR付き2点式シートベルトの座席。

●ELR付き2点式シートベルトとは
…腰の左右2点で支えるシートベルトで、通常、ゆっくり引くとベルトを自由に出し入れでき、急ブレーキや衝突などの衝撃を感知したときにはベルトが固定します。
(ELR：緊急ロック式ベルト巻き取り装置)

●シートベルトが座席の中間から出ている座席。
…チャイルドシートのシートベルト通し穴の位置よりも、前方向からシートベルトが出ている座席。

次ページに続く

次の条件のいずれか１つでもあてはまる場合は、その座席ではお使いいただけません。

●パッシブシートベルトの付いた座席。

●パッシブシートベルトとは
…車の座席に座ってドアを閉めると、自動的にシートベルトを装着してくれる装置のこと。とくに輸入車に多くみられます。(オートマチックシートベルト)

●進行方向に対して横向き、または後向きの座席。

●エアバッグ装備の座席。
前向き、後向きともに取り付けできません。
…サイドエアバッグのみの場合には使用できます。

●座席の奥行きが43cm未満の場合。

●座席の中央が極端に盛り上がっていて、取り付けたときに不安定になる座席。

●バケットシート。
…座面の中央が深くへこんでいる座席。

●シートベルトの取り付け幅※が40cm以下の場合。
※シートベルトが座席の端にあたっているところから、バックルの付け根までの長さ。

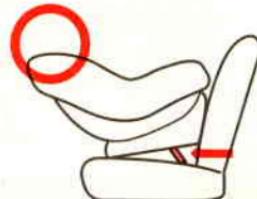
チャイルドシートは前座席・後座席ともに取り付けられますが、より安全な後座席への取り付けをおすすめいたします。

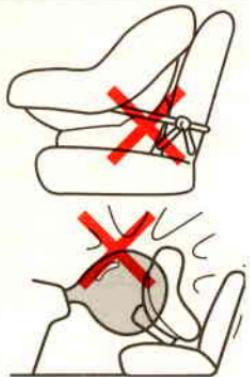
安全にお使いいただくために

「危険」、「警告」、「注意」の表示は、これらの注意事項が守られなかった場合に予想される、危害・損害の、切迫度や大きさにより区分したもので、大変重要な内容です。必ずお守りください。

表示	表示の内容
⚠危険	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される内容です。
⚠警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。
⚠注意	誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害が起こる可能性があります。

⚠危険

次のような使いかたは、チャイルドシートが本来の機能を果たさず、危険をまねく恐れがあります。

- 使用条件に適合しないお子さま・座席などでは、使用しないでください。

- 前向き取り付け時には角度アジャスターを収納してください。また、後向き取り付け時には、必ず角度アジャスターで角度を調節してください。（23ページ参照）

前向き取り付け時

後向き取り付け時

次ページに続く

⚠ 危険

●車に取り付けるときは、必ず車のシートベルトで固定してください。ひもなど、シートベルト以外のもので固定しないでください。

●エアバッグが装着された座席では、チャイルドシートを使用しないでください。衝突時、エアバッグの作動により大きな衝撃を受け、危険です。
…サイドエアバッグのみの場合には使用できます。

●車のシートベルトおよび座席の種類などにより、取扱説明書どおりにチャイルドシートをしっかり固定できないときは、他の座席に取り付けてください。

●チャイルドシートの座席部を横向きにしたまま走行しないでください。(お子さまの乗せ降ろしのときのみ使用してください)

●お子さまがチャイルドシートの上に立ったり、中腰になったり、正座をしないように注意してください。座らせたときには、胸あてパッド、幼児用ベルトが正しく装着され、左右の差し込み金具がしっかりバックルに差し込まれ、表示が緑色に変わっていることを確認してください。

⚠ 警告

次のような使いかたは、チャイルドシートが本来の機能を果たさず、危険をまねく恐れがあります。

● 幼児用ベルトがたるんだ状態で使用しないでください。ベルトが首に巻き付き、窒息する恐れがあります。

• 幼児用ベルトは正しい長さに調節してください。(17ページ参照)

● 衝突事故や製品を落下させたときなど、1度でも強い衝撃を受けたチャイルドシートは、外見上の破損がなくても、絶対に使用しないでください。

● 7kg未満のお子さまを乗せる場合には、必ずインナークッションを正しく取り付けて、お子さまの体にフィットした状態で使用してください。

● 車のシートベルトに傷がある場合は、その座席に取り付けないでください。

● 幼児用ベルトに傷が付いたときは、ご使用にならないでください。修理の必要がありますので、弊社のお客様相談室にお問い合わせください。

次ページに続く

⚠ 警告

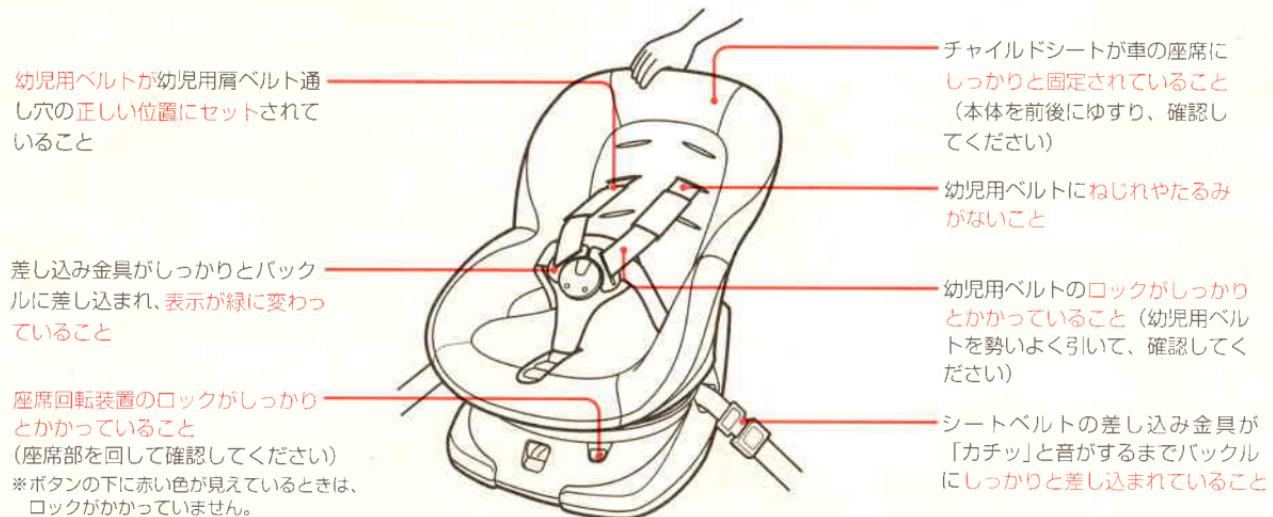
次のような使いかたは、同乗している方に危険をまねく恐れがあります。

●お子さまがバックルボタンを押してしまう可能性があります。ときどき、差し込み金具がバックルからはずれていないことを確認してください。
はずれていると本来の働きをせず、さらにベルトが首に巻き付く恐れもあります。

●お子さまを車内に1人で放置しないでください。
日ざしの強い日などには、車内の温度が高くなり、お子さまが脱水症状になる恐れがあります。また予期せぬ事故の元となります。必ず保護者の方が同乗してください。

●お子さまがチャイルドシートに乗っていないときでも、必ずシートベルトで固定しておいてください。急ブレーキをかけたときなど、車内に転がり、運転の妨げとなることがあります。

●車の前座席に、チャイルドシートを後向きに取り付け、助手席側のドアミラーが見えにくいときは、後座席に取り付けてください。

●シフトレバーやパーキングブレーキなどの運転操作に支障をきたす場合は、助手席に取り付けないでください。

●2ドアや3ドアの車で後座席に人が乗る場合は、チャイルドシートを助手席に取り付けないでください。緊急時の脱出の妨げになります。

⚠ 警告

チャイルドシートの本来の機能を果たすため、走行前には、次の事項を点検してください。

幼児用ベルトが幼児用肩ベルト通し穴の正しい位置にセットされていること

差し込み金具がしっかりとバックルに差し込まれ、表示が緑に変わっていること

座席回転装置のロックがしっかりとかかっていること
（座席部を回して確認してください）
※ボタンの下に赤い色が見えているときは、ロックがかかっていません。

チャイルドシートが車の座席にしっかりと固定されていること（本体を前後にゆすり、確認してください）

幼児用ベルトにねじれやたるみがないこと

幼児用ベルトのロックがしっかりとかかっていること（幼児用ベルトを勢いよく引いて、確認してください）

シートベルトの差し込み金具が「カチッ」と音がするまでバックルにしっかりと差し込まれていること

緊急の場合には

事故など緊急時は、あわてず、保護者の方が胸あてパッドのバックルボタンを押し、幼児用ベルトをはずして、すみやかにお子さまを車外に脱出させてください。

⚠ 注意

●チャイルドシートに直接日光が当たると、本体や差し込み金具などが熱くなり、お子さまがやけどをする恐れがあります。お子さまを座らせる前に各部にさわり、やけどをしないことを確認してください。またお子さまを座らせていないときも、差し込み金具をバックルに差し込んでください。

●走行中は、チャイルドシートの操作や調節をしないでください。また、同乗している他のお子さまがチャイルドシートに触らないようにしてください。

●チャイルドシートを通常の椅子として使用すると、転倒してけがの原因となります。この取扱説明書に記載されている使いかたで使用してください。

●チャイルドシートを車の座席の可動部やドアに挟まないように、十分注意してください。

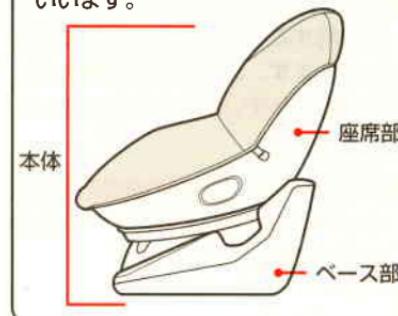
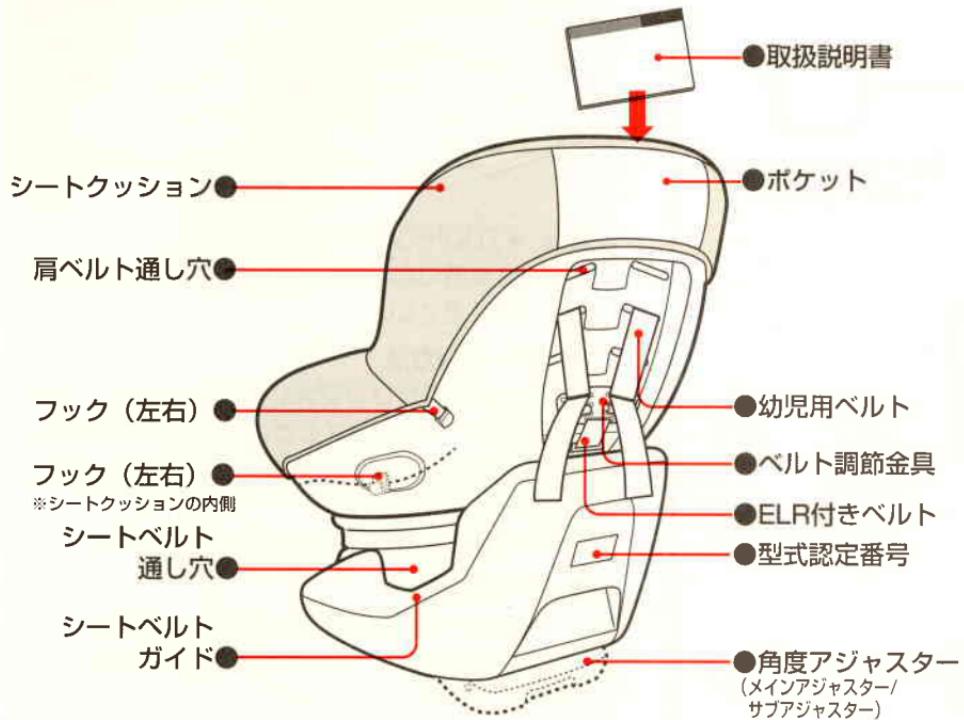
●チャイルドシートを改造しないでください。また、本書に記載されていない取り扱いをしないでください。

●車の座席にクッションや座布団などを敷いたまま、チャイルドシートを取り付けないでください。チャイルドシートがしっかり固定されません。

●ロッキングクリップをチャイルドシートを固定する以外の目的で使用しないでください。

●チャイルドシートを風雨にさらさないでください。

●シートクッションなどの縫製品や、ウレタンなどのクッション材をはずしたまま使用しないでください。また、本製品以外のものと取り替えたりしないでください。（安全性能に影響を与える恐れがあります）

●固定されていないものを車内に放置しないでください。（急ブレーキや衝突の際にお子さまなどにあたる可能性があり危険です）

各部のなまえ ご使用前に、各部品がそろっていることをご確認ください。

正　面

本書で使われる「本体」「座席部」「ベース部」とは、以下の部分をいいます。

背面・側面

●取扱説明書

●ポケット

シートクッション●

肩ベルト通し穴●

フック（左右）●

フック（左右）●
※シートクッションの内側

シートベルト通し穴●

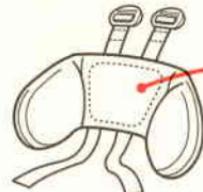
シートベルトガイド●

●幼児用ベルト

●ベルト調節金具

●ELR付きベルト

●型式認定番号

●角度アジャスター
（メインアジャスター/サブアジャスター）

●ロッキングクリップ
（EG/S タイプ共通）
ロッキングクリップは、チャイルドシートを固定するために使う重要部品です。（使いかたは、31ページをご覧ください）
使用しないときは、シートクッション後ろ側のポケットに保管してください。

●ヘッドパッド

●エッグショックパッド
(EGタイプのみ)

●インナークッション

●インナーシート
(EGタイプのみ)

ロッキングクリップ（EG/Sタイプ共通）

ロッキングクリップを紛失された場合は、店頭にてお買い求めいただけます。また、下記の方法で有料にてお求めいただけます。

価格 ￥700円(2000年3月現在)
※価格は変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。

ロッキングクリップ(№.３０３２３７１０)

●お申し込み先
コンビ コンシューマープラザ
部品販売(相談)受付窓口
ＴＥＬ：０４８－７９７－１００１
ＦＡＸ：０４８－７９８－６１０９
電話受付時間：１０：００～１７：００
（日・祝日・年末年始除く）

●ホームページでのご案内
http://www.combi.co.jp/soudan/faq_baby.htm

車に取り付ける前に

ここでは、お子さまの体重による取り付けの向きと正しい座らせかたを説明しています。また、お子さまの体に合わせてチャイルドシートの幼児用ベルトの長さ、肩ベルトの位置などを調節してください。

お子さまの成長に合わせて、3つの使いかたができます。

体重 3.8kg～7kg まで（1カ月未満～4カ月ころまで）

- 後向き使用（前向きでは、絶対使用しないでください）
- 7kgまでのお子さまには、インナークッションを取り付けて使用
- リクライニングを最も倒した状態で使用
- 付属のヘッドパッドは使用しない

後向き

体重 7kg～10kg まで（4カ月ころ～1才ころまで）

- 後向き使用（9kg未満の場合は前向きでは、絶対使用しないでください）
- インナークッションは取りはずして使用
- リクライニング使用可(取り付け後、リクライニングでチャイルドシートを倒すことができます)
- 付属のヘッドパッド、インナーシート(EGタイプ)は使用可

後向き

体重 9kg～18kg まで（1才ころ～4才ころまで）

- 前向き使用
- インナークッションは取りはずして使用
- リクライニング使用可(取り付け後、リクライニングでチャイルドシートを倒すことができます)
- 付属のヘッドパッド、インナーシート(EGタイプ)は使用可

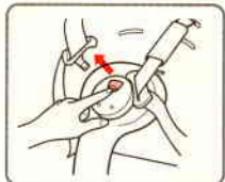
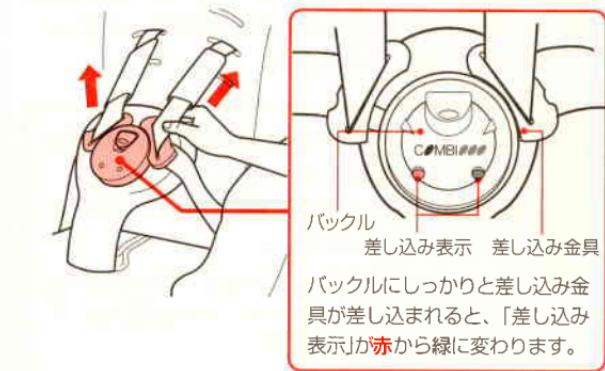
前向き

お子さまの座らせかた

車に取り付けてからは、チャイルドシートを調節できません。取り付け前に、お子さまを座らせ、ベルト通し穴の位置や幼児用ベルトの長さを体に合わせてください。

⚠ 警告

- 胸あてパッドは、ねじったり、折り曲げたり、乗ったりしないで、ていねいに扱ってください。胸あてパッドが破損し、本来の機能を果たさないことがあります。
- 図のような座らせかたは、おやめください。チャイルドシートが本来の機能を果たさず、危険をまねく恐れがあります。

バックルボタンを押して差し込み金具を抜き、胸あてパッドを前に倒し、お子さまを座らせます。

バックルのとめかた

1 お子さまを座らせて、左右の腕を幼児用ベルトに通し、差し込み金具をカチッと音がするまでバックルに差し込みます。

左右の幼児用ベルトがねじれていないこと

差し込み金具をバックルに差し込んだとき、腰ベルトがお子さまの腰をしっかり押さえていることを確認してください。

ワンポイント

● バックルボタンを押すと、差し込み金具がはずれます。

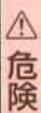
● お子さまを座らせていないときも、差し込み金具をバックルに差し込んでおいてください。

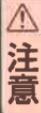
2 差し込み金具を軽く引き、差し込み表示が緑色に変わっていることを確認してください。

バックルにしっかりと差し込み金具が差し込まれると、「差し込み表示」が赤から緑に変わります。

⚠ 警告

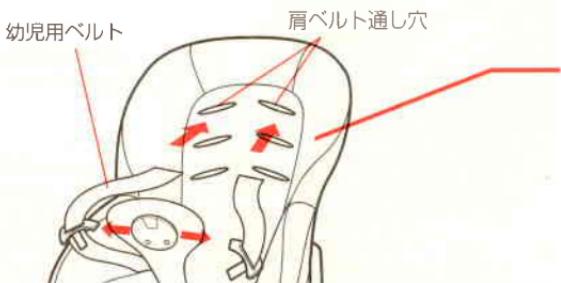
● 左右の差し込み金具が、完全にバックルに差し込まれて表示が緑になっていないと、衝突時にお子さまが飛び出す恐れがあります。

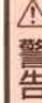
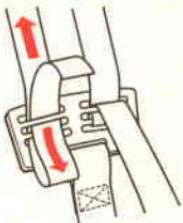
● 差し込み金具が確実に固定されていないと、差し込み金具がはずれ、ベルトが首に巻き付き窒息するなどの恐れがあります。

肩ベルト通し穴の位置の決めかた

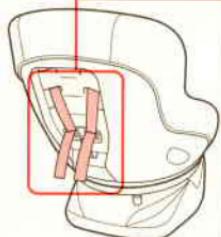
お子さまを座らせたとき、お子さまの肩の高さよりも、肩ベルトが下にある場合は、お子さまの肩のすぐ上になるように幼児用ベルトの位置を変えてください。(工場出荷時は一番下になっています)

低月齢のお子さまの場合

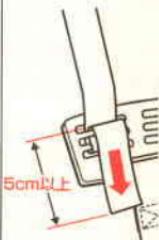
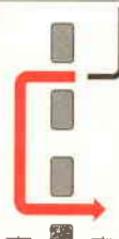
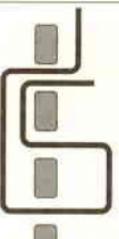
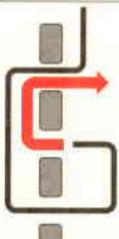
体重7kg未満のお子さまの場合は、「肩ベルト通し穴の位置の決めかた」と「幼児用ベルトの長さ調節のしかた」については、特に注意してください。

⚠危険

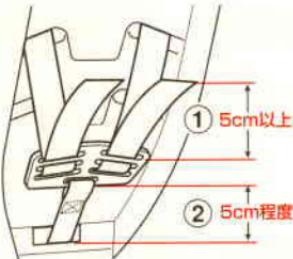
- 肩ベルト通し穴の位置と幼児用ベルトの長さが適正かを確認してください。
- 幼児用ベルトが正しく肩にかかっていることを確認してください。

※これらの調節が誤っていると、車の衝突時にお子さまがチャイルドシートから飛び出してしまう恐れがあります。

⚠注意

- 1時間以上は連続使用しないでください。

1 本体裏側のベルト調節金具から幼児用ベルトを引き抜き、お子さまの体に合った肩ベルト通し穴に入れ直します。

⚠警告

- 幼児用ベルトは、着座したお子さまのすぐ上の肩ベルト通し穴に通してください。

● 幼児用ベルトをベルト調節金具から引き抜いてはずします。

● 肩ベルト通し穴の位置がお子さまの体に合っていないと、衝撃が加わったときに肩からはずれ、お子さまを正しく保持できません。
● 肩ベルト通し穴は、左右同じ高さの穴を使用してください。

2 ❶～❹の手順で、背面の幼児用ベルトをベルト調節金具に取り付けます。

❶ ❷ ❸ ❹

5cm以上

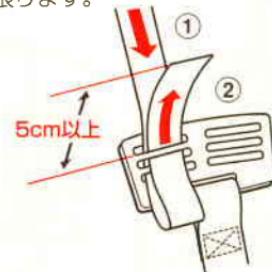
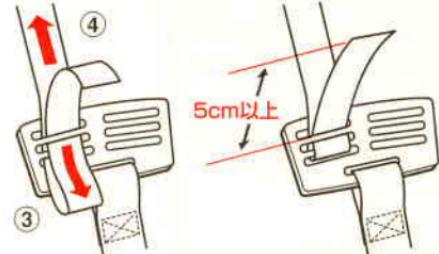
裏 表

幼児用ベルトの長さ調節のしかた

お子さまの体に合わせて、座らせた状態で幼児用ベルトがフィットするように長さを調節します。

⚠ 警告

- 幼児用ベルトがベルト調節金具からはずれるのを防ぐため、図①に示すように必ず幼児用ベルトを5cm以上余らせてください。

- 図②のようにベルト調節金具を5cm程度引き出した位置でセットしてください。
- 幼児用ベルトをたるませて使用すると、ベルトが首に巻きつき窒息する恐れがあります。

- お子さまと幼児用ベルトの間に、大人の手のひらが入りますか。きつかったり、ゆるかったりするときには、幼児用ベルトの長さを調節してください。

幼児用ベルトを短くするには

矢印①の方向に幼児用ベルトを引き、たるみをもたせて、②の方向に引っ張ります。

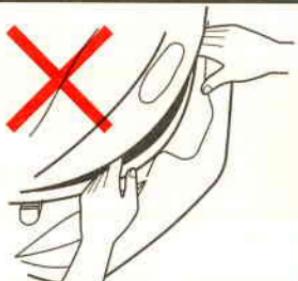
幼児用ベルトを長くするには

矢印③の方向に幼児用ベルトを引き、④の方向に引っ張ります。

座席の回転のしかた

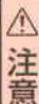
1 座席回転ボタンを押しながら、チャイルドシートの座席部を回します。(少し動いたら、ボタンから指を離してください)

2 「カチッ」と音がしてロックがかかります。(前向き、後向きとも)
ボタンの下の赤い色が見えていないことを確かめ、さらに座席部を左右に動かして、確実にロックされていることを確認してください。

ワンポイント
● 横向きにした場合、ロックはかかりません。

⚠ 危険

● チャイルドシートの座席部を横向きにしたまま走行しないでください。

⚠ 注意

● 座席の背部や下部のすき間に手や指を入れたまま、回転操作しないでください。

リクライニングの使いかた

お子さまが寝たときなどのために、車のシートベルトをゆるめずにチャイルドシートを寝かせることができます。

1 チャイルドシートの座席の下にあるリクライニングレバーを図の**1**の矢印のように手前に引きながら上に持ち上げ、リクライニングの角度を調節します。

2 レバーから指を離して座席部を前後にゆすり、しっかりロックされているかを確認してください。

注意

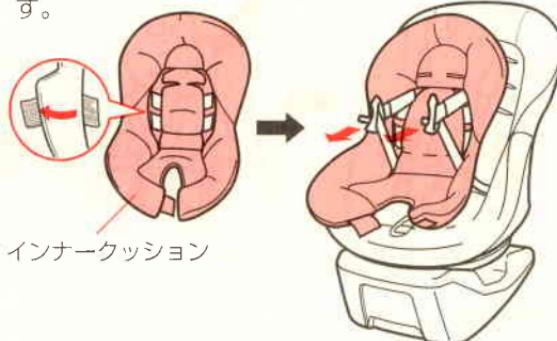
- リクライニング操作は、必ず車を停車させて行ってください。
- 必ず両手で操作してください。

ワンポイント

- 取り付け後、リクライニングしづらい場合は、車の背もたれを1～2段リクライニングさせてから操作してください。リクライニング後、車の背もたれをチャイルドシートに接するように再度起こしてください。
- 車の座席がリクライニングできない場合や座席の形状によっては、チャイルドシートのリクライニングが使用できないことがあります。

インナークッションの使いかた(7kgまでのお子さまには)

次ページに続く

インナークッションは、小さな赤ちゃんを保護するためのものです。お子さまの体重が7kg未満の場合には、必ずインナークッションをお使いください。また、7kg以上になりましたら取り外してください。

⚠ 危険

- インナークッションが使用できるのはお子さまの体重が7kg未満のときだけです。7kg以上で使用すると、本来の機能を果たさず危険です。
- インナークッションは、取り付けかたをよくお読みになり、正しく使用してください。
- ヘッドパッドとの併用はできません。必ず取りはずしてください。

⚠ 注意

- はずしたインナークッションを車内に放置しないでください。急ブレーキをかけたときなど、車内に転がり、運転の妨げとなることがあります
- チャイルドシートを持ち運ぶときには、インナークッションを持たないでください。

1 インナークッションの5カ所のマジックテープをはずし、幼児用ベルトと胸あてパッドを通します。

2 インナークッションのひもを一番上の肩ベルト通し穴に通し、裏側で結びます。

インナーシートの取り扱いかた

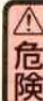
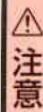
3 5カ所のマジックテープをとめて、インナークッションを固定します。

4 お子さまに合わせて、各部の調整をします。

ワンポイント

● 「肩ベルト通し穴の位置の決めかた」(15ページ参照)、「幼児用ベルトの長さ調節のしかた」(17ページ参照)をご覧ください。

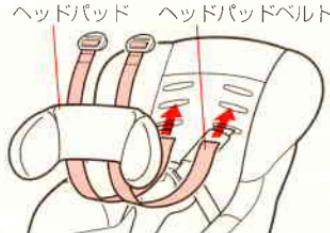
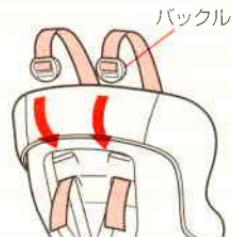
インナーシートは、EGタイプのみの付属品です。

危険

● インナークッションとの併用はできません。必ず取りはずしてください。

お子さまをチャイルドシートに座らせたとき、腰の両側にすき間ができる場合には、インナーシートを座面に敷いて使用してください。

ヘッドパッドの取り付けかた

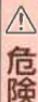
⚠危険

● インナークッションとの併用はできません。必ず取りはずしてください。

⚠注意

● はずしたヘッドパッドを車室内に放置しないでください。急ブレーキをかけたときなど、車内に転がり、運転の妨げとなることがあります
● チャイルドシートを持ち運ぶときには、ヘッドパッドを持たないでください。

1 ヘッドパッドベルトを、幼児用ベルトを通している肩ベルト通し穴と同じ穴に通します。

2 ヘッドパッドベルトのバックルを、上から回しこみます。

3 ヘッドパッドベルトを図のように通して、ヘッドパッドの位置がずれないように締め付けます。

取り付け角度コントロールシステムの使いかた(後向き時専用)

車の座面角度は、車種によってさまざまです。このためチャイルドシートの角度が不適切になる場合があります。このような場合には、「取り付け角度コントロールシステム」を使い、最適な角度で取り付けてください。取り付け角度コントロールシステムは、後向き取り付け時の角度を調節する「角度アジャスター」と角度を確認できる「角度チェッカー」のことで、車の座席にチャイルドシートを置いて適切な取り付け角度を確認することができます。

⚠ 危険

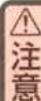
- 角度アジャスターは、後向きで使用してください。取り付け時には角度チェッカーでお子さまの体重と表示があっていることを確かめてください。
- 角度チェッカーがお子さまの体重と異なる範囲をさしている場合は、必ず角度アジャスターで適切な取り付け角度に調節してから使用してください。また、赤色の部分をさしている状態では、絶対に使用しないでください。
- 前向きで使用するときは、必ず角度アジャスターを収納してください。

ワンポイント
- 車の座面角度がゆるい場合も、角度チェッカーが「危険」をさします。42ページを参照のうえ、調節してください。

1 車を平らな場所に駐車してください。
※坂道などで取り付けると、取り付け角度の正確なチェックができません。

2 角度チェッカーの表示がまだお子さまの体重と合わない場合は、ベース底面のメイン角度アジャスターを引き出し、もう1度、車の座席に置きます。

●アジャスター1段目

3 角度チェッカーの表示がまだお子さまの体重と合わない場合は、さらにサブ角度アジャスターを引き出します。
※サブアジャスターに付いているベルトは誤使用(サブアジャスターのみの使用)を防ぐためのものです。

●アジャスター2段目

⚠注意
● 角度アジャスターを操作するときは、指をはさまないように注意してください。

車への取り付けかた

ここでは、シートベルトの種類と取り付け上のご注意と、車への取り付けかたを説明しています。

※車の座席の形状などにより、取り付けできない場合があります。詳しくは1ページをご覧ください。

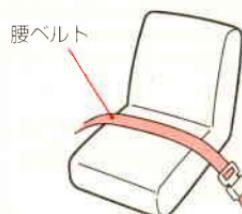
⚠危険

- チャイルドシートがしっかり固定できない場合は、本来の機能をはたさず大変危険ですので、他の座席に取り付けてください。
- 車への取り付けは、ひもなど、シートベルト以外のもので固定しないでください。
- エアバッグが装着された座席では、チャイルドシートを使用しないでください。衝突時、エアバッグの作動により大きな衝撃を受け、危険です。
  ※サイドエアバッグのみの場合には使用できます。
- チャイルドシートの座席部を横向きにしたまま、走行しないでください。

⚠警告

- 車のシートベルトに傷がある場合は、その座席に取り付けないでください。
- 助手席にチャイルドシートを取り付けてドアミラーが見えにくい場合は、後座席に取り付けてください。
- お子さまが乗っていないときでも、チャイルドシートは必ずシートベルトで固定してください。
- シフトノブやサイドブレーキなど、運転に支障をきたす場合は、助手席に取り付けないでください。
- 2ドア・3ドア車で後座席に人が乗る場合、緊急時の脱出の妨げになりますので助手席にチャイルドシートを取り付けないでください。

ワンポイント

- 車のシートベルトに巻き取り装置が付いている場合には、ベルトを全部引き出し、巻き取り口付近のシートベルトを洗濯ばさみなどではさみ、引き込まれないようにすると、取り付け作業が楽になります。

シートベルトの種類と取り付け上の注意点

チャイルドシートは、シートベルトの種類により取り付けられない場合や、取り付け時にロッキングクリップが必要な場合があります。下表をご覧になって、ご使用の車のシートベルトの種類をご確認ください。下表ではわからない場合には、車の取扱説明書をご覧ください。

車のシートベルトの種類（シートベルトの方式）	特徴（見分け方）		取り付け時の注意点
ELR付きシートベルト（緊急ロック式ベルト巻き取り装置付き）	ゆっくり引くと自由に出入りし、勢いよく引くとロックする。	3点式	ロッキングクリップを必ず使用。
		2点式	取り付けできません。
チャイルドシート固定機能付きベルト（AELR付きシートベルト）	ベルトを全て引き出した後で巻き戻すと自動的に締まり、それ以上伸びなくなる。（ベルトを全て巻き戻すと解除される）	3点式 2点式共通	ロッキングクリップ不要。ただし、安定しない場合はロッキングクリップを使用。
マニュアル式シートベルト	巻き取り装置の付いていないシートベルト。	3点式 2点式共通	ベルトの長さを調節し固定する。ただし、安定しない場合はロッキングクリップを使用。
NLR付きシートベルト	ロック機能のない巻き取り装置付きシートベルト。	3点式 2点式共通	
ALR付きシートベルト	ベルトを引き出す途中で止めるとロックされ、それ以上引き出せなくなる。	3点式 2点式共通	必要な長さを引き出して固定する。ロッキングクリップ不要。

2点式シートベルトとは

図のように、左右の腰ベルトの2点で体を支えるシートベルトのこと。

3点式シートベルトとは

図のように、左右の腰ベルトと肩ベルトの3点で体を支えるシートベルトのこと。

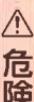
取り付けの準備

車へ取り付ける前にお子さまに合わせて、使いかたを選んでください

1 体重3.8kg～7kg未満の場合

その他の条件

1. 後頭部がインナークッションから出ないこと
2. 座らせたとき、胸あてパッドとあごとの間に、3cm以上のすき間があくこと

使いかた

1. 進行方向に対して後向き
   (取り付けは前向きで行い、その後回転させてください)
2. リクライニングをもっとも倒す
3. 付属のインナークッションを必ず使用
4. 付属のヘッドパッド、インナーシートは使用禁止
5. 角度コントロールシステムで取り付け角度を調節

参考月齢：1カ月未満～4カ月ころ(首がすわるころ)まで

⚠危険

● すき間が3cm以下の場合、使用中に胸あてパッドがのどや口を圧迫する恐れがあります。

2 体重7kg～10kg未満の場合

その他の条件

1. 後頭部がチャイルドシートの背もたれから上に出ないこと

参考月齢：4カ月ころ(首がすわるころ)～1才ころまで

3 体重9kg～18kg未満の場合

使いかた

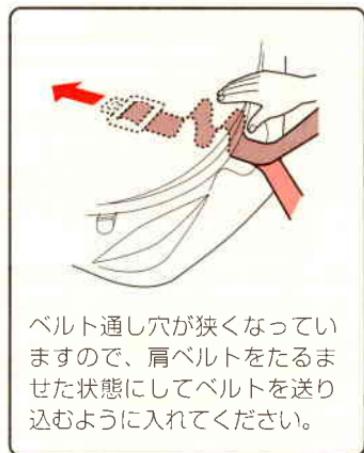
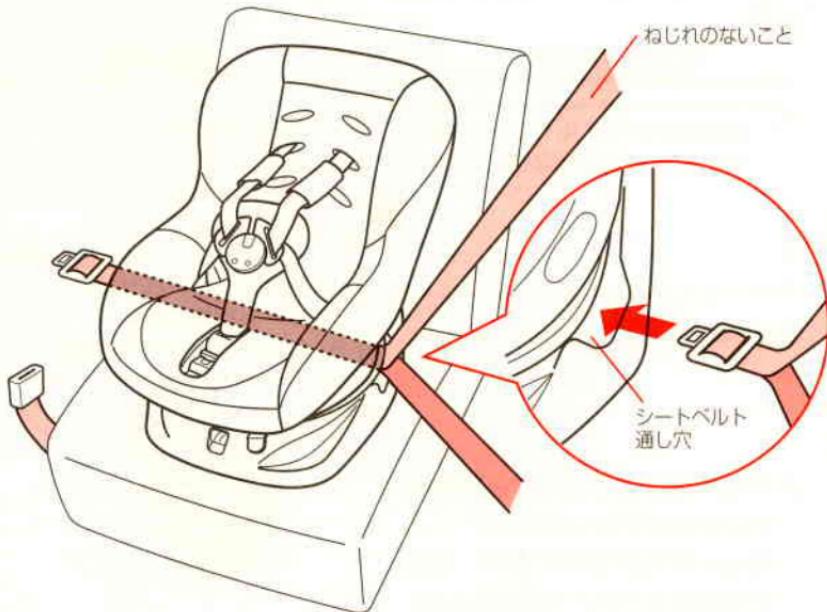
1. 進行方向に対して後向き
   (取り付けは前向きで行い、その後回転させてください)
2. リクライニングは3段階使用可能
   (取り付け時は、一番立てた状態で行ってください)
3. インナークッションは使用禁止
4. 付属のヘッドパッド、インナーシートは使用可能
5. 角度コントロールシステムで取り付け角度を調節

その他の条件

1. 後頭部がチャイルドシートの背もたれから上に出ないこと

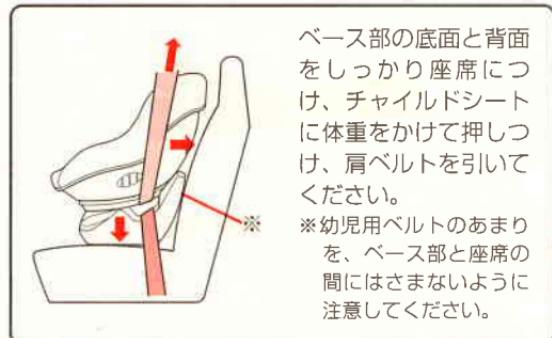
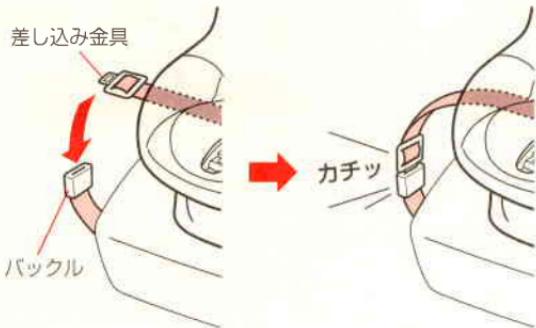
参考年齢：1才ころ～4才ころまで

※9kg未満のお子さまは必ず後向きに取り付けてください。
9kg～10kgのお子さまは、後向き前向きどちらでもお使いいただけます。

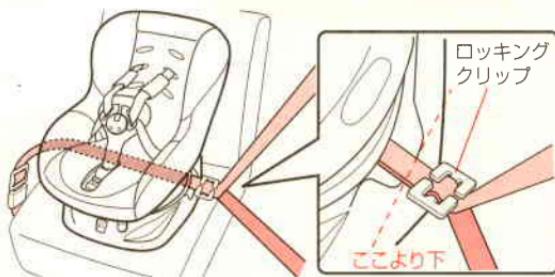
使いかた

1. 進行方向に対して前向き
2. リクライニングは3段階使用可能
   (取り付け時は、一番立てた状態で行ってください)
3. インナークッションは使用禁止
4. 付属のヘッドパッド、インナーシートは使用可能
5. 角度アジャスターは収納

3点式シートベルトの座席への取り付けかた

1 車のシートベルトをシートベルト通し穴に差し込み、チャイルドシートの中を通して、反対側のシートベルト通し穴から引き出します。

ねじれのないこと

シートベルト通し穴

ベルト通し穴が狭くなっていますので、肩ベルトをたるませた状態にしてベルトを送り込むように入れてください。

● 手を奥まで入れないでください。

取り付けはお子さまの体重に関係なく、リクライニングを一番立てた状態で、前向きで行ってください。
その後、体重に応じて回転やリクライニングを使用してください。9kg未満のお子さまは必ず後向きにしてください。

次ページに続く

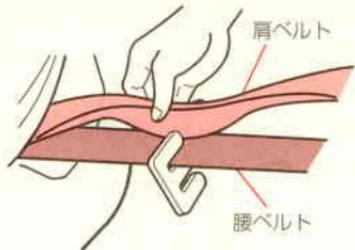
2 車の差し込み金具をバックルに差し込みます。

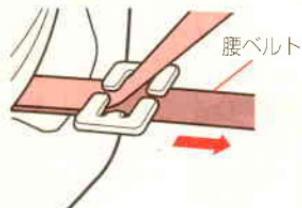
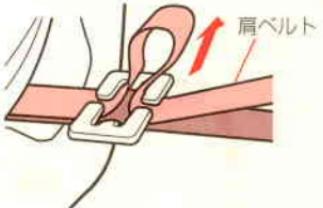
ベース部の底面と背面をしっかり座席につけ、チャイルドシートに体重をかけて押しつけ、肩ベルトを引いてください。

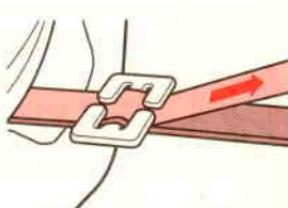
※幼児用ベルトのあまりを、ベース部と座席の間にはさまないように注意してください。

3 車のシートベルトの種類により(26ページ参照)、ロッキングクリップを取り付けます。(ロッキングクリップの取り付けかたは、31ページをご覧ください)

※シートベルト通し穴より下に取り付けてください。

4 最後に「取り付け時の完了チェックのしかた」(35ページ)をお読みになり、しっかり固定しているかを確認してください。

ワンポイント
- 取り付け時に、巻き取り口付近のシートベルトを洗濯ばさみなどでとめた場合には、必ずはずしてください。

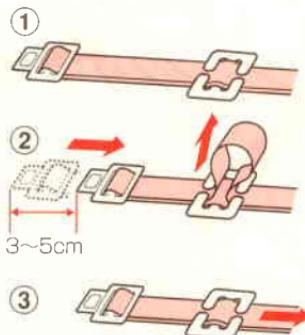
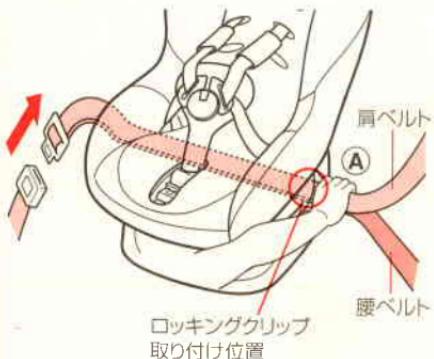
取り付け後、不安定な場合や取り付けづらい場合は41～42ページをご覧ください。

3点式シートベルトの座席への取り付けかた

ロッキングクリップの取り付けかた　A

①車のシートベルトを、腰ベルト、肩ベルトの順に、2つ折りにして、ロッキングクリップの溝に入れます。

②腰ベルトを、ベルトクリップのもう1つの溝に入れます。

③肩ベルトも、図のように片手が入るぐらいの輪ができるようにして、もう1つの溝に入れます。

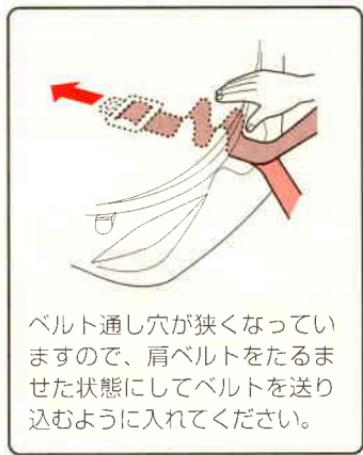
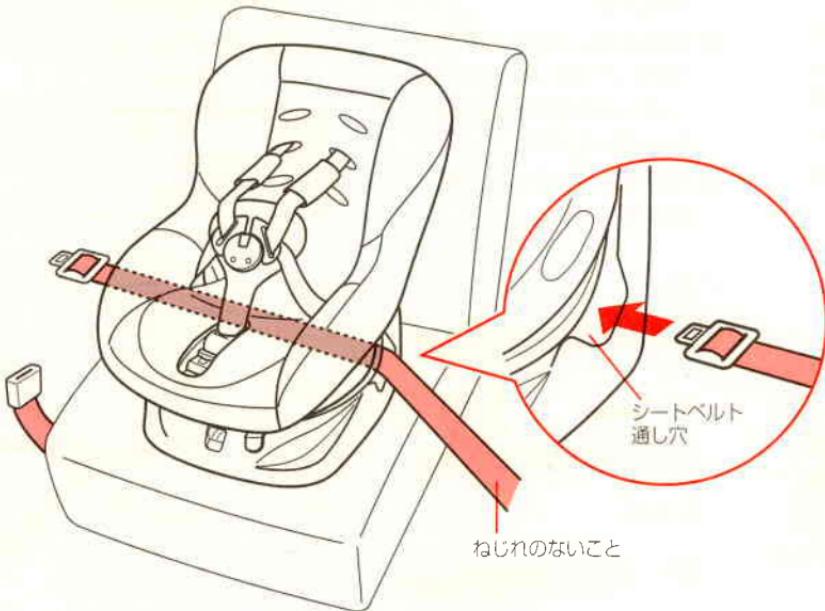
④しっかり固定させるため、チャイルドシートの上から体重をかけて押さえ、肩ベルトの輪の部分を下方向に引きシートベルトを締めます。

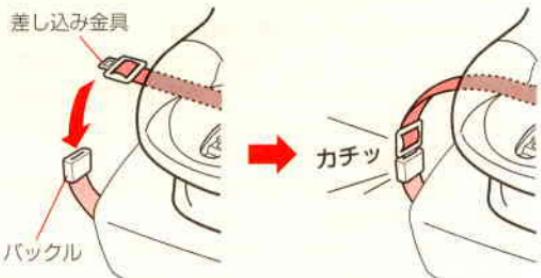
⑤肩ベルトを引いて、輪のたるみをなくします。

ロッキングクリップの取り付けかた　B

1 車のシートベルトを、ベルト通し穴に通します。

2 図のⒶの位置で、2枚のシートベルトを合わせてつかみ、バックルをはずして引き抜きます。(洗濯ばさみなどでシートベルトをはさんでおくと、取り付けが楽になります)

3
① 2枚のベルトがずれないように、ロッキングクリップを取り付けます。
② 図のように、車の上側のベルトを引いて、ロッキングクリップと差し込み金具の間を約3～5cm短くします。
③ ロッキングクリップ上のたるみをなくします。

4
① 再び、シートベルトをベルト通し穴から送り入れます。
② 上から強く押しつけながら、
③ バックルに差し込み金具を差し込みます。

バックルに差し込めない場合は再度ロッキングクリップの位置を調節してください。

2点式シートベルトの座席への取り付けかた

1 車のシートベルトをシートベルト通し穴に差し込み、チャイルドシートの中を通して、反対側のシートベルト通し穴から引き出します。

シートベルト通し穴

ねじれのないこと

ベルト通し穴が狭くなっていますので、肩ベルトをたるませた状態にしてベルトを送り込むように入れてください。

● 手を奥まで入れないでください。

（取り付けはお子さまの体重に関係なく、リクライニングを一番立てた状態で、前向きで行ってください。
その後、体重に応じて回転やリクライニングを使用してください。9kg未満のお子さまは必ず後向きにしてください。）

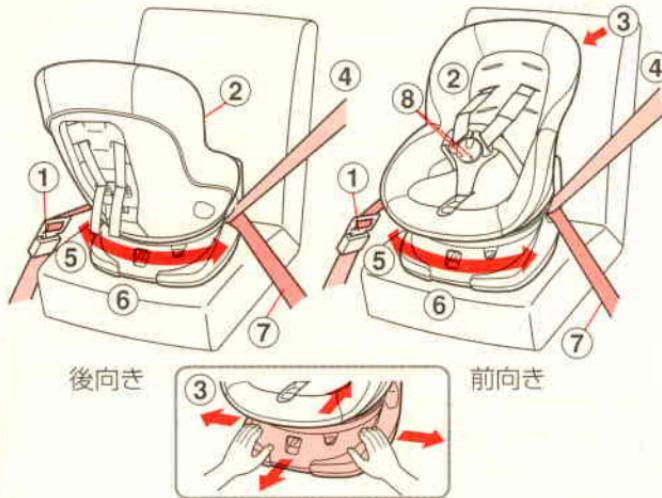
2 車の差し込み金具をバックルに差し込みます。

3 最後に「取り付け時の取り付け完了チェックのしかた」(35ページ)をお読みになり、しっかり固定しているかを確認してください。

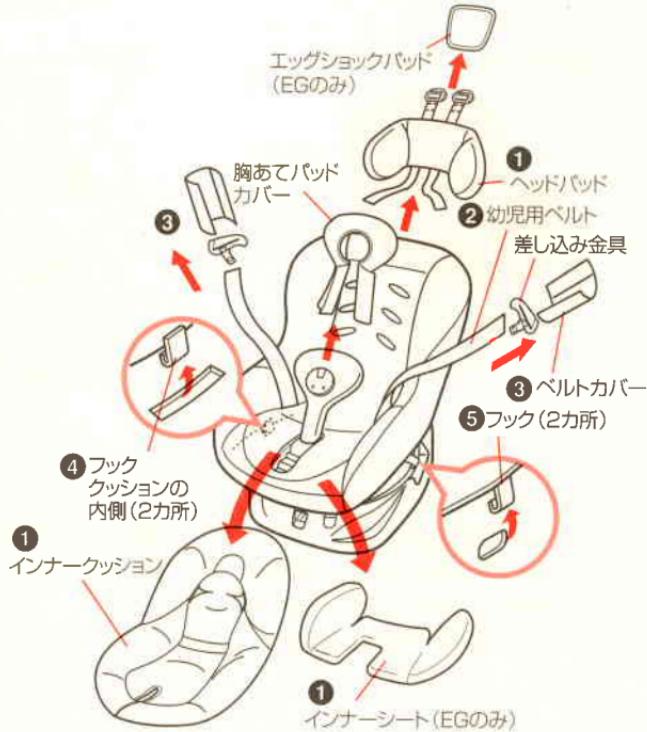
- 取り付け時に、巻き取り口付近のシートベルトを洗濯ばさみなどでとめた場合には、必ずはずしてください。
- マニュアル式シートベルトがゆるむ場合には、シートベルトの2枚重なる部分にロッキングクリップを取り付けてください。(31～32ページ参照)

取り付け後、不安定な場合や取り付けづらい場合は41～42ページをご覧ください。

ベース部の底面と背面をしっかり座席につけ、チャイルドシートに体重をかけて押しつけ、腰ベルトを引いてください。

※幼児用ベルトのあまりを、ベース部と座席の間にはさまないように注意してください。

取り付け時の完了チェックのしかた

取り付けが終わったら、チャイルドシートがしっかり固定されているか、次のことを確認してください。

> ⚠ 警告
> ● これらの項目をチェックし、しっかり固定できない場合はロッキングクリップで車のシートベルトを締め直すなど再調節してください。それでもしっかり固定できない場合は、他の座席に取り付けてください。本来の機能を果たさず、危険をまねく恐れがあります。

① 車のシートベルトの差し込み金具が、しっかりバックルに差し込まれていること。

② お子さまの体重が7kg未満の場合は、インナークッションを取り付けてあること。7kg以上は取り外してあること。

③ 車の背もたれとチャイルドシートの背もたれが接している部分に、握りこぶしが入るようなすきまがないこと。（前向きで確認してください）
ベース部を前後左右にゆすって、ベース部が約3cm以上動かないことを確認してください。

④ 取り付け時に、洗濯ばさみなどを使用した場合は、車のシートベルトの巻き取り口付近の洗濯ばさみなどをはずしてあること。

⑤ チャイルドシートの座席部が、前向きまたは後向きの位置でしっかりとロックされていること。

⑥ 後向き時は、角度チェッカーが適切な角度であること。
前向き時は、角度アジャスターが収納されていること。

⑦ お子さまが座っていても、車のシートベルトにゆるみのないこと。
※お子さまが座ると車の座席のクッションが沈み、シートベルトがゆるむことがあります。

⑧ 差し込み金具がしっかりバックルに差し込まれ、差し込み表示が緑色に変わっていること。

⑨ 幼児用ベルトを左右いっしょにつかみ、勢いよく引きロックされること。また、手を離し、引き出したベルトが戻ること。

お手入れのしかた

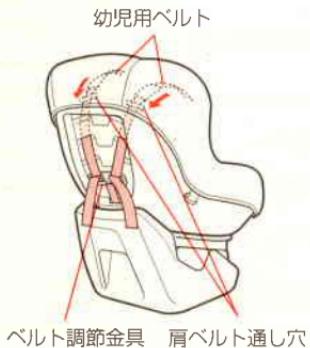
次ページに続く

シートクッションのはずしかた

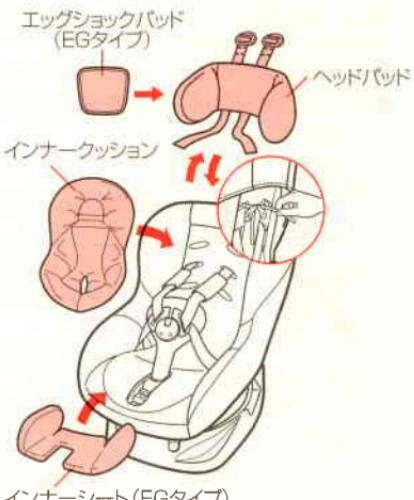
❶ インナークッションやヘッドパッドなどをはずします。
(20〜22ページをご覧ください)
❷ 左右の幼児用ベルトを、本体裏側にあるベルト調節金具からはずし、肩ベルト通し穴から引き抜きます。
❸ 幼児用ベルトから差し込み金具とベルトカバーをはずします。胸あてパッドカバーはマジックテープをはがしてはずします。
❹ チャイルドシートの外側にある2カ所のフックをはずします。
❺ 内側2カ所のフックをはずします。
❻ 胸あてパッドのところからシートクッションをはずし、そのまま上に引き上げます。

ワンポイント
● 差し込み金具は、左右を確かめて、胸あてパッドのバックルに差し込んだままにしておくと、取り付けるときに簡単にできます。

シートクッションの取り付けかた

1 シートクッションを本体の背の部分にかけ、胸あてパッドをシートクッションの中央の穴から通し、シートクッションを全体にかけ、幼児用ベルトを腰ベルト通し穴から、ねじれないように表側に引き出します。

2 シートクッション内側のフック2カ所と、シートクッション外側のフック2カ所を、それぞれ本体の溝にとめます。

3 ❶ 差し込み金具の左右、表裏を確認して幼児用ベルトに通し、

次ページに続く

幼児用ベルト

ベルト調節金具　肩ベルト通し穴

❷ 胸あてパッドにカバーをかぶせます。

❸ 幼児用ベルトにカバーを巻き、マジックテープでとめます。

4 幼児用ベルトを肩ベルト通し穴に通し、ベルト調節金具に取り付けます。(ベルト調節金具への取り付けは、「肩ベルト通し穴の位置の決めかた」15ページをご覧ください)

5 7kgまでのお子さまの場合にはインナークッションのひもを、一番上の穴に通し、ひもを結んで固定します。7kg以上のお子さまの場合にはお子さまの体型に合わせてインナーシート(EGタイプのみ)やヘッドパッドをご使用ください。

シートクッション、ベルトカバー、胸あてパッドカバー、インナークッション、ヘッドパッドの洗いかた

●洗濯時は次のことを守ってください。
●エッグショックパッドは洗濯できません。必ず抜き取ってください。

	液温は30℃を限界とし手洗いしてください。
	ドライクリーニングはしないでください。
	手絞りの場合は弱く、洗濯機脱水の場合は短時間で行ってください。 強く絞ると、シワが残ることがあります。
	日陰で平干してください。
	塩素系漂白剤は使用しないでください。
	アイロン掛けはしないでください。

※蛍光増白剤を含まない洗剤を使用してください。

本体、幼児用ベルトのお手入れ方法

通常はかたく絞った布で水拭きしてください。汚れがひどい場合は、中性洗剤を水で薄めた液で汚れを落としてから水拭きし、日陰で乾燥させてください。

● 中性洗剤を原液で使用したり、ガソリン、ベンジンなど有機溶剤の使用はおやめください。本体および幼児用ベルトをいためる恐れがあり危険です。

保管のしかた

●取扱説明書

取扱説明書(本書)は、よくお読みのうえ、シートクッション後ろ側のポケットに保管してください。

●ロッキングクリップ

チャイルドシートを使用しないときは、シートクッション後ろ側のポケットに収納して保管してください。

※他のお客さまにチャイルドシートをお譲りになる場合は、取扱説明書とロッキングクリップもあわせてお渡しください。

●本体

長期間使用しないときは、車から降ろし、風通しが良く、お子さまの手の届かない場所に保管してください。

製品仕様

プリムターンファーストEG

商品サイズ：(W)500×(D)520×(H)725mm
商品重量　：14.0kg
材質　　　：本体…ポリプロピレン
シートクッション
表生地…ポリエステル
クッション材…ウレタンフォーム

プリムターンファーストS

商品サイズ：(W)500×(D)520×(H)725mm
商品重量　：13.5kg
材質　　　：本体…ポリプロピレン
シートクッション
表生地…ポリエステル
クッション材…ウレタンフォーム

万一、幼児用ベルトがロックしたときの解除方法

●チャイルドシートの前側から

1 幼児用ベルトを手前に強く引っ張ります。

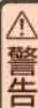
2 矢印方向にゆっくり戻します。

3 もう1度、手前方向に、ゆっくり引き出します。

チャイルドシートを、より確実に固定する方法

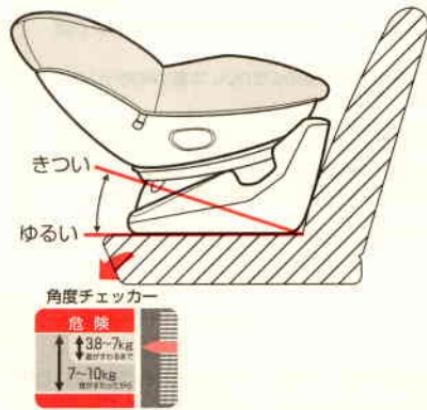
●後座席で、後向きに取り付けた場合

車の前座席を後ろにスライドさせ、チャイルドシートの背面に接するようにしてください。より確実に固定できます。

●前座席に、後向きで取り付ける場合

エアバックが装着された座席では、使用できません。また、より安全な後ろ座席への取り付けをおすすめいたします。

ダッシュボードとチャイルドシートの背面が接するように座席をスライドさせてください。より確実に固定できます。

※車種により、ダッシュボードに接しない場合があります。

●スライドできる座席に取り付けた場合

取り付け手順終了後、座席を前にスライドさせてください。より確実に固定できます。

警告

● エアバッグが装着された座席では、前向き、後向きともに使用しないでください。エアバッグの作動による衝撃で、危険な状況になります。(装備されているのがサイドエアバッグのみの場合には使用できます)

座面の角度が悪く、角度チェッカーが「危険」をさしているときには（後向きの場合）

極端に座面の角度がゆるい座席では、角度チェッカーが「危険」をさします。

この状態ではチャイルドシートが倒れすぎていて、衝突時に本来の機能を果たさず危険です。チャイルドシートのリクライニングを1段起こした状態で使用してください。

車のシートベルトのバックルが、チャイルドシートのシートベルト通し穴の角に当たり、不安定な場合

短ベルト（バックルのついている車のシートベルト）がシートベルト通し穴の角に当たり、しっかり固定できない場合は、図のように対応してください。

1 差し込み金具をはずしてバックルを持ち、短ベルトに数回ひねりを加えて短くします。

2 もう1度差し込み金具をバックルに差し込み、固定します。

警告

- ひねりを加えてもしっかり取り付けられない場合は、使用しないでください。本来の機能を果たさず、危険をまねく恐れがあります。